

■第17回福祉社会学会大会 プログラム(速報版)

※この号はメーリングリストおよび Web 上での配信のみとなっています。

■第17回福祉社会学会大会 プログラム(速報版)

本年6月15日(土)・16日(日)の両日に明治学院大学白金キャンパス(〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37)にて開催される第17回福祉社会学会大会のプログラムの速報版をお届けします。

開催校：明治学院大学(東京都港区白金台1-2-37)

		一般	学生
大会参加費	事前振込	3,000円	1,000円
	当日	5,000円	3,000円
懇親会費	事前振込	4,000円	1,000円
	当日	5,000円	3,000円
お弁当+お茶 (2日目のみ)	事前振込	1,000円	1,000円

第1日目 6月15日(土)

10:30-11:30	編集委員会	研究委員会
11:30-12:45	理事会	
12:30	受付開始	

13:00-15:30 自由報告/テーマセッション

[第1部会] 子ども・社会的養護

司会：上野加代子(東京女子大学)

1. 天理教と里親——天理教里親へのインタビュー調査に基づいて 桑畑洋一郎(山口大学)
2. 子ども虐待と血縁——血縁(意識)に着目して 久保原 大(首都大学東京)
3. 児童虐待防止対策における upstream アプローチの重要性
——虐待と認定されたシングルマザーへのインタビューから
辻 京子(香川大学)
上野加代子(東京女子大学)
4. 一時保護所閉鎖、一時保護大幅規制等を勧告——児童相談所を人権蹂躞機関と認識した国連
水岡不二雄(一橋大学)

[第2部会] 共生・連帯

司会：高野和良(九州大学)

1. 中国残留孤児の生き方とその背後 鍾 家新(明治大学)
2. ソーシャル・サポート・システムにおける重要な他者の移行
——シーケンス分析を用いて
中田知生(北星学園大学)

3. ソーシャルワークと政策決定過程への参加

——1980年代における社会福祉専門教育に着目して

中野航綺（東京大学大学院）

4. 「生活の質」再考、その論理的枠組みの構築へ——主観的厚生、ニーズ、貧困

三重野 卓（山梨大学）

【テーマセッション①】施設の戦後史

司会：天田城介（中央大学）

1. 国立ハンセン病療養所の戦後史——多磨全生園の入所者の経験と実践から

坂田勝彦（東日本国際大学）

2. 知的障害者施設の戦後史——施設を経験した人たちのライフストーリーから読み解く

麦倉泰子（関東学院大学）

3. 国立療養所の戦後史——調べるが多くあり調べようもなくはない

立岩真也（立命館大学）

15:45-17:45 自由報告

【第3部会】障害者・社会的実践

司会：深田耕一郎（女子栄養大学）

1. 東京都多摩地域における学校週五日制と地域活動の展開

——1990年代における東京都立立川養護学校の実践

加藤旭人（一橋大学大学院）

2. 知的障害者作業所の成立背景——成立期における対象と担い手に着目して

原田玄機（東京大学）

3. 精神障がい者の社会性回復に農が果たす効果について

佐々木秀夫（慶應義塾大学大学院）

【第4部会】当事者・ボランティア

司会：野口裕二（東京学芸大学）

1. 「曖昧な生きづらさ」を媒介にした12ステップ式「セルフヘルプ・グループ」の存立機制

利根川 健（中央大学大学院）

2. 「ひきこもり」支援施設の活動をめぐる両義性——フレーム概念を通じて

桑原 啓（京都大学大学院）

3. 誰が、なぜ、ボランティア活動に参加するのか

——英国ロンドン社会サービスにおけるビフレンディング・ボランティアに話を聴く

浜島恭子（DPI日本会議）

【第5部会】支援・地域

司会：笹谷春美（北海道教育大学）

1. 介護者支援事業における看取り支援の位置づけ——全国自治体アンケート調査の結果から

白石敦子（日本社会事業大学大学院）

菊池いづみ（日本社会事業大学）

2. 終末期ケアにおけるコミュニケーションの実証的考察

——介護職・ケアマネージャー・看護師への調査結果を踏まえて

角 能（内閣府男女共同参画局）

高橋幸裕（尚美学園大学）

3. 認知症」の予防が当事者支援に与える影響——秋田県羽後町の住民による実践が持つ含意
板倉有紀（秋田大学）

[テーマセッション②] 「中間支援組織」という発明と現在

司会：須田木綿子（東洋大学）

1. 「中間支援組織」という着想

門 美由紀（東洋大学）
須田木綿子（東洋大学）
米澤 旦（明治学院大学）

2. 個別イシューから普遍的課題への架橋

須田木綿子（東洋大学）
門 美由紀（東洋大学）
米澤 旦（明治学院大学）

3. 「市民社会の基盤」から「行政と NPO の中間支援」へ
——2000 年以降の NPO 支援センターの変容

米澤 旦（明治学院大学）
門 美由紀（東洋大学）
須田木綿子（東洋大学）

18:00-20:00 懇親会

第 2 日目 6 月 16 日（日）

9:00 受付開始

9:30-12:00 自由報告

[第 6 部会] 高齢者・ケア

司会：西下彰俊（東京経済大学）

1. コミュニティカフェと高齢者の当事者性

——仙台市郊外 A 市のコミュニティカフェ事業の事例から

木村雅史（東北大学）

2. 介護保険の新しい総合事業 B と地域自治の交点——新潟県上越市の取り組み

高木俊之（東海大学）

3. 老いゆく女性の自由について

——高齢者を対象とするソーシャルワークにおける女性史あるいはフェミニズムの視点

新田雅子（札幌学院大学）

4. 高年齢者雇用を巡る働く動機付けの考察——継続雇用される労働者への半構造化面接から

奥田祥子（近畿大学）

[第 7 部会] 社会福祉政策

司会：鎮目真人（立命館大学）

1. 福祉から見た台湾の国家形成 上村泰裕 (名古屋大学)
2. イギリスにおける社会的シティズンシップの変容
——2010年代における福祉制度改革の分析から 平野寛弥 (目白大学)
3. ワークフェアとアクティベーションの交錯——国際比較研究の分析を通して
小林勇人 (日本福祉大学)
4. 福祉国家に対する態度の三つの次元——ISSPのデータを用いた構造方程式モデリング
池田 裕 (京都大学)

[テーマセッション③] 学問の不可視の前提を外して研究しよう (研究委員会企画テーマセッション)

司会：樫田美雄 (神戸市看護大学・研究委員)

1. 「住まないこと」によってもたらされる地域の役割
——未確定希少難病患者との共同生活を通じて 上野 彩 (大阪大学大学院)
2. 宣言者が語るアブノーマライゼーション宣言——反集団同一性を中心として
高森 明
3. どもってはいけるけれども、吃音者ではない、を可能にするメカニズムの探究こそ社会学
樫田美雄 (神戸市看護大学)
4. アクティブ・インタビューと語りの生成
——調査者の関与について、問いと応えの明示について
時岡 新 (金城学院大学)

12:15-13:15 総会・昼食

13:30-17:00 シンポジウム (大会開催校・研究委員会合同企画) *

「多様な親子関係」への支援を再考する

司会：米澤 旦 (明治学院大学)

コメンテーター：阿部 彩 (首都大学東京)

1. 「愛着障害」概念の系譜と社会的養護
——1950年代初頭～90年代初頭までの日本の施設養護論の系譜を中心に
土屋 敦 (徳島大学)
2. 里親家庭の「おわかれ」に関わる3つの視角——子どもの利益をめぐって
三輪清子 (明治学院大学)
3. 特別養子縁組から見えてきた「多様な親子」と支援の課題 野辺陽子 (大妻女子大学)
4. ステップファミリーにおける親子関係・継親子関係と子どもの福祉
——子どもにとって「親」とは誰か
野沢慎司 (明治学院大学)

*本シンポジウムは会員以外にも公開されます。また、本シンポジウムは明治学院大学社会学部付属研究所との共催です。

※情報保障提供協力：東京大学障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業